第１回三田市立長坂中学校再編地域協議会　会議録

日　　時	令和８年１０月２８日（水）　１９時００分 ～ ２０時３０分
開 催 場 所	広野市民センター１階　大会議室
出 席 委 員	松島 委員　　増田 委員　　辻本 委員　　今垣 委員　　奥元 委員 前澤 委員　　堀井 委員　　関山 委員　　石本 委員　　堀田 委員
事務局出席者	（教育長）加嶋 幸彦 （学校教育部長）山本 直也　（次長）井上 久敏 （学校再編課長）橋本 純子　（係長）本庄 智紀　（主任）北垣 優子 （指導主事）岡崎 正文 （学校教育課長）神戸 康正　（担当係長）森口 直弥
議　　題	１．開　会 ２．本会の運営等について ・地域協議会の組織と運営について ・今後の協議スケジュールについて ・【参考資料１】地域協議会についての参考資料（別冊） ３．これまでの経緯等 ・長坂中学校の再編協議に係る経過について ・こどもたちのよりよい教育環境づくりをめざして ・【参考資料２】市内小・中学校の児童・生徒推計（別冊） ４．意見交換 ・長坂中学校について ・学校再編の必要性について ５．その他 ・次回予定　第２回地域協議会 ６．閉　会
傍　聴　人	６名
結　　論	・協議会の運営について注意事項等共有 ・次回、具体的な再編相手校について、市の考えを提案 ・第２回再編地域協議会は１１月あるいは１２月初旬で調整

会議の概要

	１．開　会
事務局	当地域協議会を三田市情報公開条例の規定に基づき、原則として公開することを決定。 傍聴者の報告(傍聴者６名) 会議の成立を報告 （報告時は、委員１０名のうち８名出席、その後２名出席し、計１０名出席） 加嶋教育長　挨拶
	委員紹介
事務局	地域協議会は１０名で構成 （保護者・地域・学校地域運営協議会の代表及び対象中学校の校長） 事務局より各委員を紹介
	２．本会の運営等について
事務局	資料１に基づき、事務局より学校再編地域協議会の目的、協議内容及び会長・副会長の取り扱いについて説明。 三田市立学校再編地域協議会要綱第５条に基づき、会長、副会長は置かず、事務局が、その事務を代理することを決定。 会議録の作成については、出席委員欄はフルネームではなく、名字に委員を付けて記載、発言は委員名を記載せず、「委員」「事務局」と記載する。各委員に修正等の有無を確認後、完成とすることを決定。 資料２に基づき、事務局より今後の協議スケジュール、協議内容について説明。 今年度内に５回程度の開催を想定、年内に相手校の決定を目指して協議を進める。協議の進捗に応じ、保護者や地域への説明会等の開催、具体的な相手校を提示した協議や議論、意見交換を行い、長坂中学校再編地域協議会として最終決定する。その後、相手校との協議を進める。
	３．　これまでの経過等
事務局	資料３、４に基づき、事務局より長坂中学校の学校再編に係る経過説明、こどもたちのよりよい教育環境づくりの基本的な考え方について説明。
	４．意見交換 **長坂中学校について**

委員	資料５に基づき、長坂中学校長である委員より、長坂中学校の現状について説明。 学校再編の必要性について
事務局	委員から自由に率直なご意見をいただきたい。
委員	こどもの数的に再編はとても良いことだと思う。参考資料３の図を見るとよくわかるが、校区がとても縦長である。再編した場合、広野も本庄も通学距離が長くなる。現状でも通学に時間を要しているが、それ以上の時間がかかると思う。 スクールバス等を走らせてもらって、こどもの安全性を守ってもらいたいのが第一である。 ニュータウンができ、広野小学校区が５校に分割された際、同じ住所（同じ大字）であっても自治会ごとに通う学校が決まるため、地域によって行く学校がバラバラになっている。同じ地域に住んでいるのに、スクールバスに乗れる、乗れないといったことがないように、その辺りは十分に考えて再編していただきたい。
事務局	こどもたちの安全面について、非常に不安に感じておられるということは重々承知をしている。スクールバスの対象地域や距離など具体的な内容は、今後の議論になってくると思う。考えながら進めていく。かつて校区変更があったことも承知している。
委員	こどもの状況を見ても、人間関係の固定化が課題だと感じている。説明の中に「友だちをどう作ったらいいか分からない」という話があったが、こどもに「好きな子いない？」と聞いたところ「家族のような関係のため対象にならない」と返答があった。幼稚園から中学校まで 11 年間同じクラスということになる。大人で言えば１つの会社にいる状況であるが、職場は、人間関係がしんどくなれば転職できる。学校では、１クラスの場合だと逃げ場がない。その中で不登校まではいかなくても学校に来にくいこどもが多いという話を聞いている。保護者からは、やっぱり早く統合してあげて欲しいという声を聞く。 学習面の課題もあるが、こどもが学校に行きにくくなってきているということが、保護者にとってもしんどい。学校に毎日行ってくれることが一番有難い。 直近で変わってきているのが、学校部活動が地域クラブ活動へ移行したことだと思う。今までであれば、部活動があるから学校に来ていたこどもが数名いると聞いた。大きい学校であれば同じ学校に地域クラブがあると思うが、長坂から他の学校で活動している地域クラブへ行くとなるとハードルが高くなった。 これまで、藍中との再編など色々な意見があったと思うが、今後どうしていくのか、市として提案していただきたい。その中で、保護者としてどういう懸念事項があるのか、提案事項が出していけるのかが今後になってくると思う。 もう１点、保護者の意見として、スクールバスは必須であると考えている。こどもの安全というところで、保護者はこどもの登校に関して不安に思っている。
事務局	現状の基準があるが、学校再編によって通学距離が変わる場合については、今後、

	再編に伴う通学の実態を踏まえ、制度の見直しも含めて、考えていかなければならない。何よりも、こどもや保護者が安心して安全に通学できるために、徒歩、自転車、バスいずれが適切なのかしっかりと考えていく。
委員	通学の安全の確保は、保護者の立場としては絶対条件である。 再編に関しては、こどもの社会性を育てていくためにも個人としては賛成である。 他の保護者からも、通学に関することが気になるということであった。長坂の再編に反対する声は出てきていないように思う。
委員	他の委員同様に通学の安全性が必要だと思う。 児童数も減少している。中学校にあがるにあたって、人数が増えた方が、社会性が養われると考える。友だちが増えていくことも良いことだと思う。育友会としても賛成の方向
委員	本庄小、広野小ともに児童数が少ない。小さい学校から大きい学校へ行く中で、なかなか馴染めないこどももいると思う。統合するにあたり、環境が大きく変わるため、心のケアについては気をつけてお願いしたい。
事務局	心のケアは大事なことだと思う。環境が大きく変わるその変化の大きさは、大人でも衝撃を受けるぐらいの大きな変化だと思っている。 新しい学校に統合した時のこどもたちのケアとして、教職員の体制を考えた場合、教職員の定数は学級数に応じて県の教育委員会で決められている。ただ、その定数以外に、加配教員を配置することや、市教育委員会の裁量でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや指導員などを配置することは可能である。統合を進めていくにあたって意見を伺いながら検討していきたいと考えている。
委員	スクールバスで、小学校まで３０分程かかると聞く。中学生になれば、自転車で８キロの道のりを通学することになる。統合先の学校までとなると、また距離が延びる。バスで４０～５０分かかる可能性がある。足腰が鍛えられて自転車通学も良いのかもしれないが、複雑な気持ちである。 友だちをどうやって作ったらよいのかという話があったが、スポーツ等を一緒にやれば、こどもたちはすぐに友だちができる。本当に簡単に仲良くなる。勉強以外の何かで、こども同士が仲良くしていけば、横の繋がりが広がるのではないかと思う。 部活動を通じて色々な所へ遠征に出かけたりすることで、行動範囲が広がっていく。そういった経験が必要である。地域のことを知って、人との会話を通じて、色々な社会勉強が身につくと思う。そういった雰囲気作りをたくさん作ってあげたいと思っている。

委員	年内に相手校を決めたいとのことだが、どういう決め方をしていくのか。資料を見させていただくと、けやき台中、ゆりのき台中、新設中学校がメインの対象になると思うが、どういう指針を示していただけるのか。多数決で決めるのか。何もなく話をしても始まらないので、市の方で指針を出してもらえるのか。
事務局	委員から色々な意見を出していただいて、その意見を踏まえたうえで、市としての意見を出したいと考えていたが、今日のこれまでのご意見を聞く中で、まず市の方で提案を出すのが良いのかなという感じもしている。 多数決ということではなく、委員会の総意として決めたいと思っているが、その決め方については色々な方法がある。 どういう案を出すかについても色々な意見があると思う。具体的な学校名が出たが、例えば３校であれば３校と再編した場合のメリットやデメリットなど、議論ができるような資料をお示ししたいと考えている。お示しをするタイミングが、次回が良いのか、もう少し議論し具体的な学校名が出てきた後の方が良いのか、というところは市の中ではまだ決めていない。今の段階ではもう少し議論を深めてからかなと思っていた。
委員	長坂中学校の卒業生として、長坂中学校がなくなるかもしれないということは、少し寂しく感じている。 小規模校だとどういう問題が起こるのか想像できないが、先ほど言われていたようなことがやはり起こるのかなと思った。複数のクラスになることが解決の１つにはなるのかなと思った。私はけやき台が良いかなと思っている。 こどもの心のケアをしていただきながら、安全に通学できるようスクールバスの配車も進めてもらいたい。
委員	資料４頁に、中学校の望ましい学校規模は、３～６学級とある。１学年３クラス以上とすると、10 年後に該当するのは新設校、ゆりのき台中だけである。あと残りの５校を合わせて同じくらいの数になる。そうすると、三田市内に中学校は３校かなと思う。 これからどの中学に入っていくのか、シミュレーションして決めていかなければならない。新しく作るのか、増築するのかという話になってくると思う。そうすると、お金をできるだけ少なくしながら、スクールバスのことなど、安全面を確保するために先々のことを考えて配分する必要がある。新しい学校を作って、また次はこちらに作ってとなると、どんどんマイナスになっていく。それがプラスになるように、安全な方向、こどもたちのためにお金が使えるような考え方をしていただきたい。 農業関連でも全国的に再編化が進められている。大規模農業化になれば、農業者がその場所に残れなくなってくる。学校だけでなく市全体の都市計画を考えながら、今後の学校づくりの方向性を検討していただいたら良いかなと思う。

事務局	市教育委員会の中で議論になっていることを全てご指摘いただいたと思う。 具体的に言えば、何年先を考えるかによって、将来の学校の数も変わってくる。我々が考えられる将来は、本当に何年先なのか、非常に大きな課題である。10 年後と 50 年後では、もう全然違ってくる。今このメンバーで、50 年先のことを考えても良いのかという不安も一方ではある。 また、生徒数だけで考えれば、市内に３校となるといった議論もある。ただ、200㎢を超える広大な面積の三田市に、中学校が３校というのが本当に適切なのかどうかという議論も一方ではある。望ましい学校規模から導き出す考え方もあるが、三田市の地域性を考慮すると、例えば、人口は同じで面積は小さい市と比べるのは少し違うのではないか。そう考えると３校が適切かどうか議論になる。 もう１つ言われた都市計画との話で、将来の三田市のことを考えた場合に、学校だけではない、というまさにその通りである。地域をどうするのかということと、学校はセットだということも考えているので、今ご指摘いただいていることは、議論の肝になるところである。 今の段階では、学校再編と地域づくりはセットで考えているが、やはりこどもたちのことを考えると、もう再編は待ったなしの状況であり、何とか再編を加速させたいという思いがある。
委員	再編のことはよくわかる。どの仕組みになっても、まず、通学の安全性の確保が最も必要になると思う。 人数から言うと、長坂と藍が同じくらいである。藍中校区で反対が多かったと聞いた。７年程前の話になるが、何が反対だったのか。１回だけの反対で再編を諦めるのか。反対されても何回でも説明会を開催して、市の考えを通して行くぐらいの気持ちでいかなければ、住民にから反対されたから、また次にといった進め方では、絶対に再編はできない。ある程度住民の意見をもちろん聞きながら、納得してもらえるように進めて行かないといけないと思う。 元々、長坂中学校は、本庄と藍と広野の３地区だった。昭和２２年からそうであった。それが、ニュータウンができたことによって校区が変わっただけで、藍中と長坂中が一緒になるということであれば元に戻るだけのことである。何が理由なのか、その理由をどうしたら良いかということも答えていたのか。
事務局	かつて長坂中と藍中の再編については、統合する先を長坂中として市の計画を示したが、地元から学校がなくなることへの不安を、藍中校区の多くの方々からいただいた。それが当初白紙とした一番大きな原因になっている。 ただ、10 年後の推計のとおり、藍中も確実にこどもの数が減っていく。長坂中の小規模化の課題と同じだと思っているし、再編対象となっている学校である。今後、藍中の保護者や地域の方とも、こういった会をできるだけ早く持ちたいと思っている。学校がなくなることや、再編していくということに関しては、そこに色々な思いがあるが、こどものことを第一に考え、学校はこどもが学ぶ場であるというところをしっかり説明しながら、中学校の方々からの意見も聞いて、藍中としての

	再編も考えていきたいと思っている。
委員	学校の適正規模である各学年３クラスというところから推計データを見ると、相手校はおのずと見えてくると思う。 長坂中と藍中を統合しても、10 年後は各学年２クラスしかない。狭間中と富士中は地域が近いので統合すれば、３クラスにはなる。ゆりのき台中は、この先まだまだクラス数が多く、５～６クラスである。新設の中学校も同様に多い。 その中で、どこと統合するのかは、おのずと見えてきているのかなとも思う、それがけやき台中かなとも思う。市から全体的にこう考えているというところを、できるだけ早く出していただきたい。提案、提示していただいて、賛成反対は一旦置いておいて、保護者の中でその辺りの意見交換をやりたいと思っている。
事務局	次の会で、市から具体的な相手校について提案する方向で進めてよいか。 →反対意見なし。 保護者との意見交流会についても、そういった場を持ちたいと考えている。
	５．　次回予定
事務局	11 月もしくは 12 月初旬に開催予定で調整する。
	６．　閉　会
事務局	－山本学校教育部長　挨拶－